

学 位 論 文 の 要 旨	
氏 名	季 慶 芝
学位論文題目	島嶼における地域婦人会の変遷と現状 —奄美大島大和村の事例を中心に—
<p>本論文は、奄美大島大和村における地域婦人会を主な事例として、地域婦人会の変遷と現状について詳述し、大和村の地域婦人会を時代的背景や奄美全体に位置付けることによって、地域婦人会の特徴や存在意味について考察したものである。</p> <p>本論文の構成は以下の通りである。</p> <p>第1章「奄美大島と女性」では、研究対象となる女性の地縁組織である地域婦人会が存在する背景として、奄美大島の概況について、地理や歴史、人口、行政組織、自然環境などについて概略する。また、奄美大島の女性と女性文化に関して、まず、奄美の伝統的宗教祭祀や民間信仰であるノロ祭祀やユタ、ヲナリ神信仰、さらに女性の経済生活に密接に関係した大島紬織りなどについても触れる。</p> <p>第2章「奄美大島における地域婦人会の変遷と展開」では、地域婦人会の定義について検討した上で、まず、明治末期から戦前の婦人団体の結成、発展、解散にいたる歴史過程を跡づけ、さらに戦時体制下の婦人団体の特徴と役割について考察した。</p> <p>第3章「大和村における戦後の地域婦人会の変遷と現状」では、戦後、地域婦人会が再結成された社会的背景およびその活動内容とその後の展開について紹介する。次に、奄美大島の大和村を事例として、戦後の1950年代から現在まで10年ごとに分けて、各時期における活動内容およびその役割の変遷と特徴について詳述する。さらに、戦後結成された地域婦人会の特徴、特に戦前の婦人団体の体質の継承と新しい特質の出現について、また、戦後の地域婦人会の役割の変遷と特徴、現在の地域婦人会の現状及び直面している課題について考察した。</p> <p>第4章「大和村における地域婦人会と生活改善運動」では、戦後の生活改善運動の理念や目的、奄美大島における生活改善運動の展開について詳述し、その上で、大和村の地域婦人会の生活改善運動について、その実態を明らかにした。考察では、当時、生活改善運</p>	

動の主管である農林省の方針が、自主的なグループを組織して生活改善運動を展開するというものであったのに対し、奄美大島ではそれを忠実に執行されず、地域婦人会が生活改善運動の受皿となった理由について、また地域婦人会による生活改善運動が島嶼の女性または島嶼の地域社会に与えた影響について検討した。

第5章「地域婦人会とジェンダー規範—大和村大棚地区の事例」では、大和村大棚地区の婦人会を事例として、過去の活動と現在の活動を比較し、また、大棚婦人会の女性の会員の家庭内におけるジェンダー関係も視野に入れつつ、地域社会におけるジェンダー規範の変化について考察した。さらに、地域婦人会の活動として、年中行事などの活動内容に、ジェンダーによる役割分担が鮮明にみられるが、地域婦人会の発展という観点から、そのジェンダー規範のマイナス面とプラス面についても考察を行った。

第6章は「地域婦人会の地元化現象—知名瀬地区と国直地区の事例」では、先行研究にもとづいて、地域婦人会の「地元化」現象について定義を試みた上で、地域婦人会の組織論と地元化という現象が出現した経緯について紹介した。また、奄美大島における地域婦人会の地元化現象を把握するために、その一般的な事例として知名瀬婦人会を、また特殊な事例として国直婦人会をそれぞれ事例として取り上げ、奄美大島における地域婦人会の地元化現象の実態について検討した。最後に、島嶼という地域社会における地域婦人会の地元化現象の要因やその認識についても考察した。

結論として、第一に、戦後の地域婦人会は戦前の婦人団体の基盤の上に発展してきたこと、その上で大和村の地域婦人会の事例研究から、その特徴として、(1)地域婦人会はいつも地域社会に密着して、地域社会の要求に応じて存在してきたこと、(2)地域婦人会の活動の全体的な流れからいえば、生活改善運動にみるような対内的な「利己」から慈善活動にみる対外的な「利他」へ転換する傾向が見られることである。第二に、奄美大島の地域婦人会の変遷と現状を踏まえて、戦後の生活改善運動の実態、地域社会における役割のジェンダー性、地域婦人会の地元化現象の原因とその特殊性を考察することより、奄美大島地域婦人会の独自性を明らかにした。大和村の地域婦人会の事例を奄美大島の地域婦人会や全国的な組織網の中に位置づけてみると、地域婦人会の変遷の在り様や現状は、地域社会と密接な関係にあり、とりわけ奄美大島の戦後の独自の歴史的条件と文化的特徴に深く影響されているということが言える。